

第4回玉城町かわまちづくり協議会資料

玉城町かわまちづくり計画(案)について

令和5年5月31日

玉城町かわまちづくり計画

令和5年5月

目 次 (案)

市町村及び河川の概要.....

1. 市町村等の概要.....

2. 市内の河川の概要.....

水辺とまちづくりに関する基本方針.....

1. 関連計画における河川の位置づけ.....

2. 基本方針.....

①現状・課題.....

②かわまちづくりの目指す姿.....

③基本方針.....

④計画対象範囲.....

⑥既往かわまちづくり計画とのつながり.....

⑦事業スケジュール.....

ソフト施策の個別施策計画書.....

1. 河川名.....

2. 施策の実施範囲.....

3. 施策概要.....

支援整備内容の概要（ハード施策）.....

1. 河川名.....

2. 整備範囲.....

3. 整備内容.....

ハード施策の個別整備計画書.....

1. 整備内容名.....

2. 整備概要.....

3. 整備の必要性、有効性.....

4. 整備の実現方策.....

5. 推進体制.....

6. 有効利用および維持管理.....

7. 特徴.....

その他特筆すべき事項.....

1. 玉城町かわまちづくり協議会.....

2. たまきかわまちワークショップ.....

3. ニーズ把握調査.....

4. 社会実験.....

1.市町村及び河川の概要

■玉城町の概要

- 玉城町は、三重県の中部に位置し、市の南東部で伊勢市との境界に宮川が流れる。
- 古来より伊勢参宮の宿場町、世界遺産熊野古道の街道起点をなす要衝として栄え、現在はJR参宮線や伊勢自動車道が通っている。
- 人口:1.5万人(R5.4末時点) ・面積:40.91km²



出典: 玉城町都市計画
マスタープラン

■まちの基盤

- 古くから伊勢神宮への参宮客が集まる交通の要衝で、北畠親房と北畠顕信によって築かれたとされる田丸城がある宿場町として栄えてきた。
- 周辺にはアスパ玉城、玉城ふれあい農園といった観光スポットが存在している。



田丸城跡



アスパ玉城



玉城ふれあい農園

玉城町 おすすめスポット

玉城町の新たな魅力スポット「水辺の楽校」。
でも玉城町には、ほかにも行きたいところ、知りたいところがいっぱいあります。
現地へ足を運び、玉城らしさを知り、感じ、楽しみましょう。

水辺の楽校 NEW

玉城町の新しいお楽しみスポット。子どもたちが安全に水遊びを楽しみながら、水や自然や生き物について学ぶことができます。河川敷でのスポーツやバーベキューの利用も考えられています。



百間バネ

宮川の強い水の流れをはね除けるための石積みので「百間バネ」は宮川の洪水から尊い命を守るという願いを込めて明治の時代に築かれました。地域の防災の知恵が水辺の楽校の西端に残っています。

いろいろな生き物たちにあえるかも。

せせらぎ水路の付近ではヤゴの仲間やメダカや野鳥など、いろいろな生き物が生息しています。



2017三重県共有デジタル地図(写真地図データ)



アスパア玉城

緑に囲まれた自然いっぱいのアスパア玉城。メイン施設「玉城ふれあいの館」「ふるさと味工房アグリ」のほかに、マウンテンバイクコース、子供広場などがあります。

玉城ふれあいの館 (玉城弘法温泉)

ふれあいの館には玉城弘法温泉があります。緑に囲まれた静かな環境と、おだやかな泉質でリラックスさせてくれます。地元の人々に人気の温泉です。



ふるさと味工房アグリ

作り手の顔が見える安心で新鮮な農作物がたっぷり。「玉城豚」の精肉や加工品、手づくりパンなどもあります。またパンやソーセージづくり体験教室、農業体験教室、バーベキューなども楽しめる施設です。



玉城豚

村山龍平記念館

村山龍平は、紀州藩田丸領に仕えた旧士族。明治維新後、大阪に移住し、朝日新聞を創刊しました。その後、朝日新聞を一流の新聞に育てるとともに社会事業や文化事業にも力を尽くしました。記念館は、その偉業や遺品を数多く紹介。郷土資料館として玉城町の歴史も紹介しています。



田丸神社

学問の神様とされる菅原道真をはじめ20柱の神様をまつる神社です。古くはご神木に雨などを祈願する農耕神だったといわれています。現在は学業成就や厄除けなどで多くの参拝客が訪れます。



玉城ふれあい農園

約30棟のいちごハウスが広がる観光農園。低農薬栽培にこだわった栽培で知られています。いちご狩りの人気スポットです。



的山公園

周辺のまちなみを一望できる山頂公園です。標高269mの小高い山で、初心者でも気軽に歩けるハイキングコースもあります。公園までの遊歩道は、季節ごとの彩りを見せ、美しい自然を感じながら歩くことができます。



山頂からの眺望▶



田丸城跡 (続日本100名城⑮)

野面積みと呼ばれる石垣を残す田丸城。南北朝時代に北畠親房が、南朝の拠点として築いたのが始まりで、700年近い歴史を経ています。戦国時代には織田信長の次男、信雄が天守を築いて居城としました。



村山龍平歌碑

玄甲舎

江戸時代の田丸城主の家老で、優れた茶人でもあった金森得水の別邸。茶室と客室を兼ねた建物と、家族が生活する居宅で構成された数寄屋造が特徴です。京都から一流の職人を呼び復元させた町指定の文化財。



朽羅神社

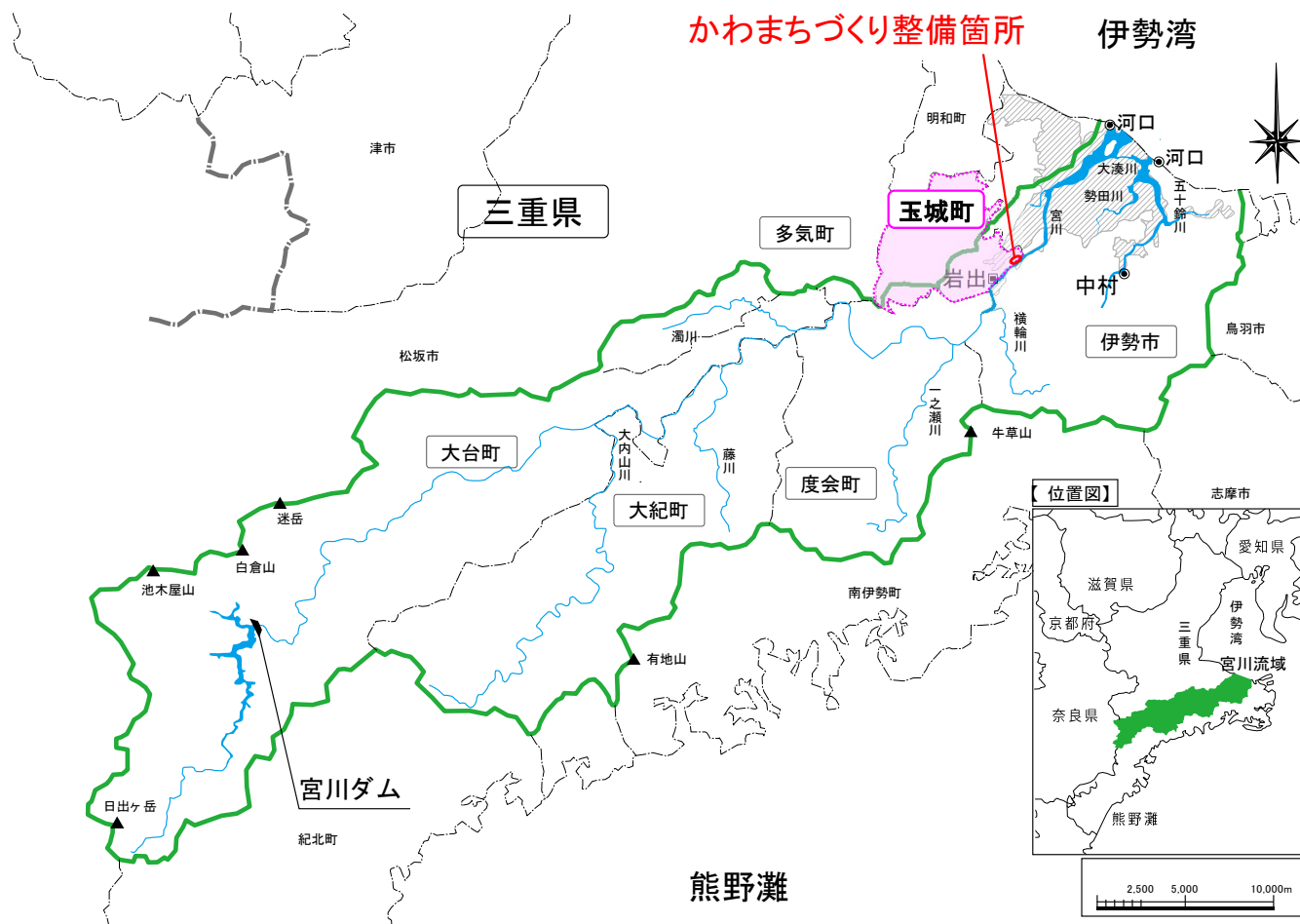
皇大神宮摂社にあたる朽羅神社は田丸野原の農耕の神様を祀る神社で、田んぼの中にたたずむ大きな森の中にあります。米の収穫期には黄金色の稲穂と森のコントラストが美しい姿を見せます。



1.市町村及び河川の概要

■主な河川

- 玉城町と伊勢市の境界にあたる南東端を宮川が流れている。
- 宮川は全国有数の清流として知られ、何度も清流日本一となっている。
- 広い高水敷には河川公園や各種スポーツ広場、あるいは採草地等として利用されている。特に、桜の名勝である宮川堤は、広大な公園として整備され、伊勢神宮に関わる伝統的な行事の陸曳の起点となっている。また、玉城町内の河川敷には「たまき水辺の楽校」がR1に開園した。



一級河川宮川水系
延長96km
流域面積920km²

1.市町村及び河川の概要

■河川利用状況

- 玉城町昼田地区の河川敷に、水辺の楽校を整備し令和元年5月に開校した。
- 水遊びができるせせらぎ水路やキャンプやイベント等ができる広い高水敷の広場が整備され、水遊びや散策・キャンプ等を中心に休日にはのべ200人を超える利用がされている。
- 星空観察会やデイキャンプと音楽の融合イベントなどが地元主導の取組みで行われている。

水辺の憩いの場としての利用



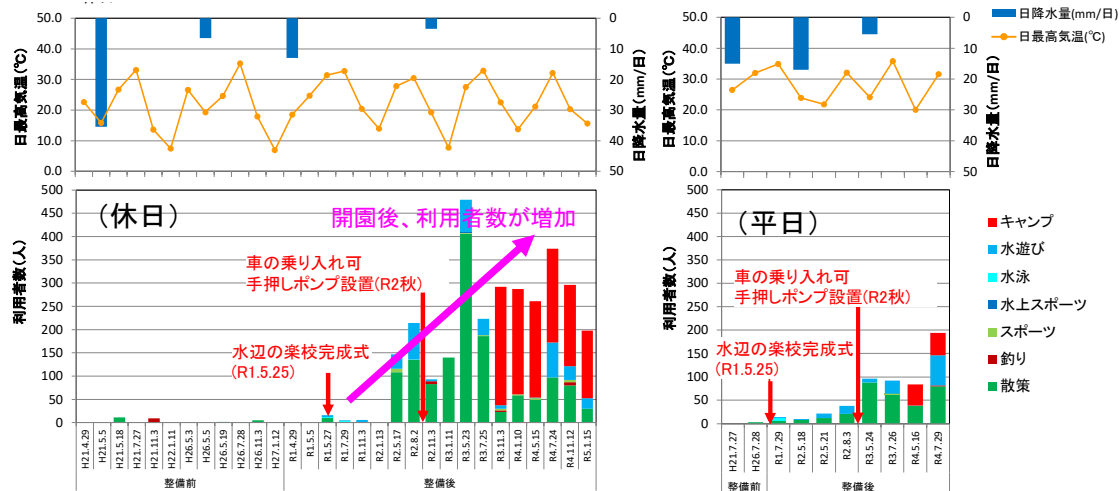
高水敷の利用(オートキャンプ)
(R3.5.23)



せせらぎ水路の利用
(R3.5.23)



園路の利用(自転車利用)
(R3.5.23)



イベントの場としての利用



天体観測(玉城町教育委員会主催) (R2.8.22)



デイキャンプエリア



オテラスステージ



出店ブース

ミナテラスキャンプ (R4.11.5)



水生生物調査の実施
(R元.6.12: 玉城町立下外城田小学校)

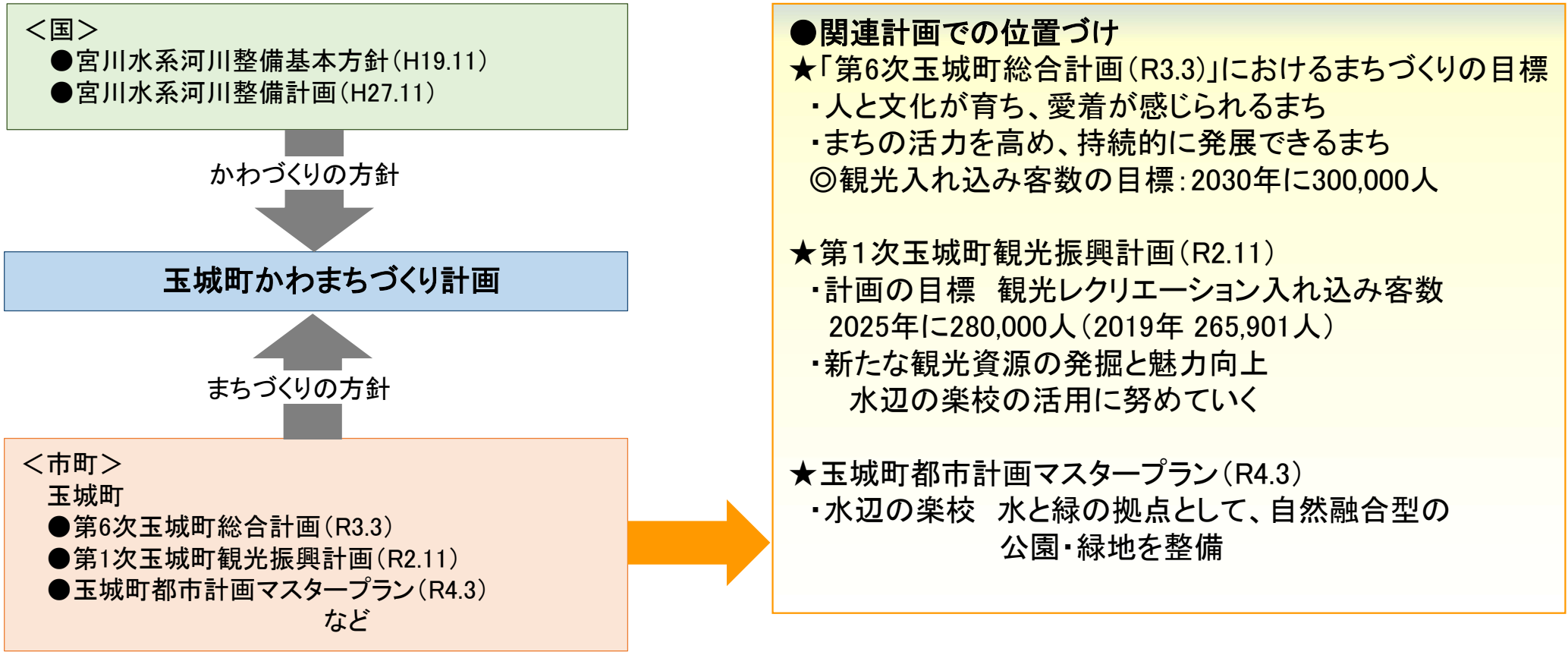


クリーン大作戦 (R2.10.25)

2.水辺とまちづくりに関する基本方針

■ 関連計画における河川の位置づけ

- 宮川水系河川整備計画(H27.11)では、人と河川との豊かなふれあいの場の整備として、「地域住民との連携や宮川の上下流との交流を創出する場となる水辺の整備・利活用計画による、良好なまちと水辺が融合した空間形成の円滑な推進を図る」こととしている。
- 第6次玉城町総合計画(R3.3)、玉城町都市計画マスタープラン(R4.3)、第一次玉城町観光振興計画(R2.11)等の玉城町の各種計画において、既存施設を活用した地域活性化を目指しており、たまき水辺の楽校をさらに充実していくことが位置付けられている。



2.水辺とまちづくりに関する基本方針

■玉城町の現状・課題

●玉城町の現状

- ◇伊勢参宮の宿場町、熊野古道の街道起点や田丸城跡を中心とした歴史文化に溢れる町
- ◇宮川の清流を活用した水辺の楽校でのキャンプ利用
- ◇「玉城豚」や柿、いちご、米といった特産品の存在
- ◇アスパ玉城、玉城ふれあい農園といった観光スポットの存在

●玉城町の課題と目標

(課題)

<観光入れ込み客数の減少>

- ・魅力のある地域資源があるものの、H26をピークに観光入れ込み客数が減少傾向である。

<地域資源の活用による更なる賑わいの創出>

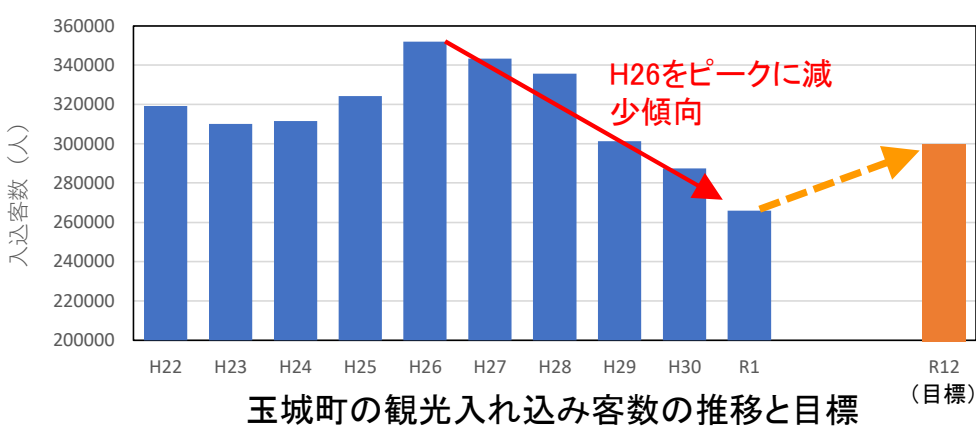
- ・魅力ある資源を十分に生かしていないことから、地域資源を活用した観光・交流機能の強化が必要である。

<持続可能なまちづくり>

- ・緩やかではあるが、人口減少が進行していることから、まちの活力を高め、持続的に発展できるまちづくりが必要である。
- ・地域で生まれた子どもを次代の担い手として育成するため、地域との連携による子どもの豊かな体験と学び場の充実や、多様な世代が参加して住民同士の活発な交流が生まれる機会を充実する必要がある。

(目標)

- ・地域資源を活用し、観光入れ込み客数の拡大を目指す。
- ・計画の目標 観光レクリエーション入れ込み客数
2030(R12)年に300,000人(第6次総合計画)



2.水辺とまちづくりに関する基本方針

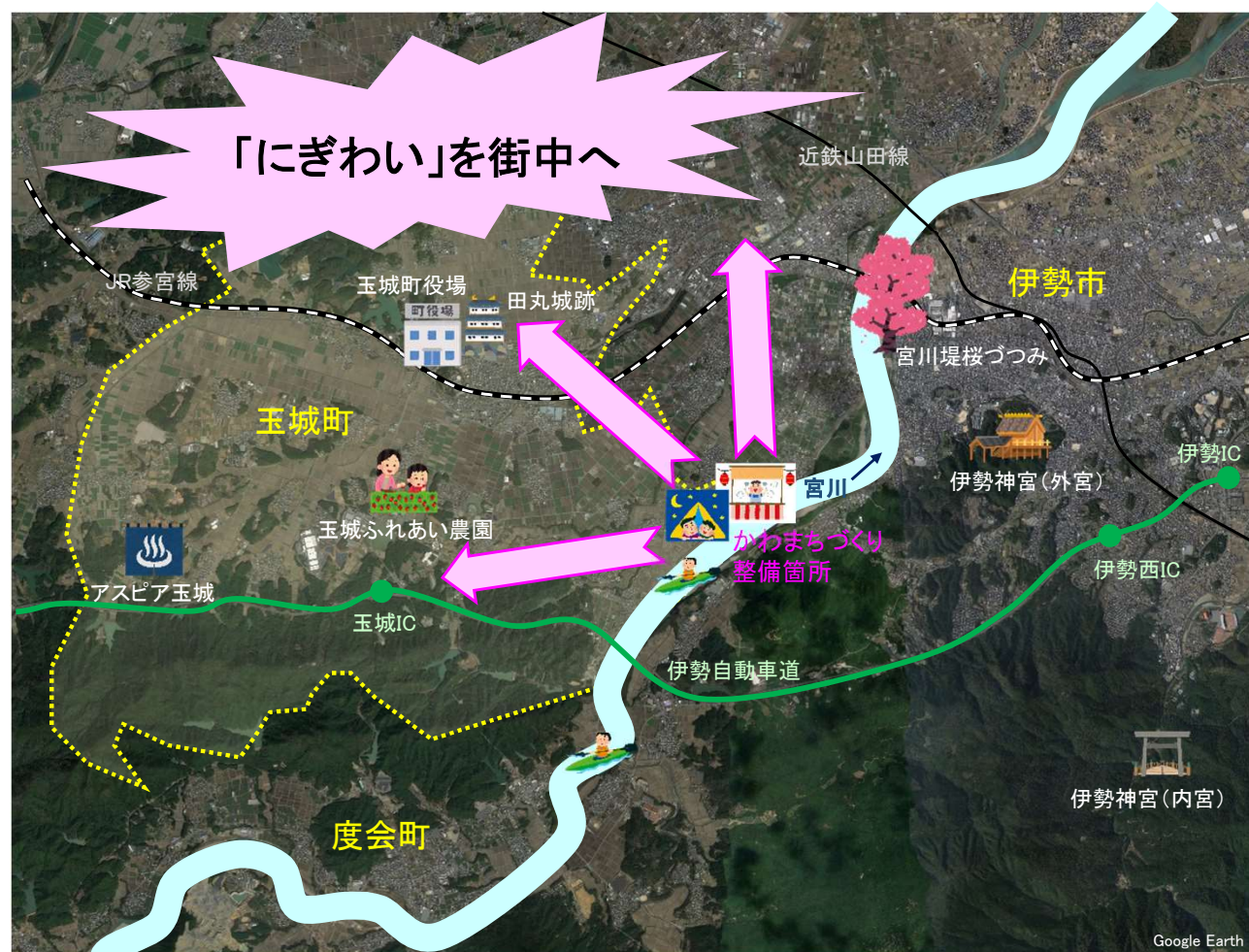
■かわまちづくりにより目指す姿(案)

●かわまちづくりにより目指す未来の姿(案)

『清流宮川と玉城町の「自然」「歴史」「にぎわい」の交流拠点の創出

～清流宮川から「にぎわい」を街中へ～』

- ・新たな観光資源としての魅力アップによる観光交流人口の拡大
- ・様々な活用メニューを通じた世代間交流と活力向上による町への愛着の拡大(定住人口の維持)
- ・地域住民の憩いや安らぎの場、子供たちの環境学習の場等、地域住民のふれあい、交流の拡大



2.水辺とまちづくりに関する基本方針

■基本方針(案)

基本方針1 宮川の持つ魅力を活かしたかわづくり

宮川で整備されている水辺の楽校や高水敷空間の利用施設を活かすとともに、豊かな自然環境や景観を保全し、多様な生き物との共生が図られるよう、これらの利用と自然環境が融合した河川空間づくりを推進する。

基本方針2 歴史資源や既存施設を活かしたかわとまちの回遊性の向上

玉城町内に分布する歴史資源や宮川河川敷内の既存施設をつなぐことで、河川空間とまちが一体となるような回遊性の向上を推進する。

基本方針3 宮川の新たな魅力の発信

宮川の特性を活かした新たなイベントの展開、SNSを活用した情報発信等、宮川の沿川市町が一体となった新たな魅力の発信を推進する。

■計画対象範囲

- かわまち計画の対象範囲は、たまき水辺の楽校(玉城町昼田地区)周辺を対象とする。
- ソフト施策は、まちとの回遊性も踏まえ、玉城町全域で実施する施策も含む。



2.水辺とまちづくりに関する基本方針

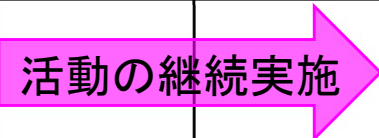
■事業スケジュール

基本方針 1 宮川を持つ魅力を活かしたかわづくり								
施策名	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
利用と自然環境 が融合した河川 空間の整備		設計	施工(国土交通省)		(部分)供用開始			
				施工(玉城町)				

基本方針 2 歴史資源や既存施設を活かしたかわとまちの回遊性の向上								
施策名	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
モデルルートの設定		モデルルートや発信方法の検討(玉城町)					活動の継続実施	
案内看板の設置		ルート案内板の設置(玉城町)					活動の継続実施	
観光パンフレットの活用		「たまき旅」の利活用(玉城町)					活動の継続実施	
サイクルルートの活用		サイクルルートの利活用(玉城町)					活動の継続実施	

2.水辺とまちづくりに関する基本方針

■事業スケジュール

基本方針 3 宮川の新たな魅力の発信									
施策名	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
新たなイベントの展開	社会実験 (玉城町他)	社会実験、活用方法の検討(玉城町他)							
									
	都市・地域再生等利用区域指定(国交省、玉城町)								
	水辺で親しみを持てる環境学習・水生生物調査(国交省 玉城町)								
	防災イベントの開催・歴史的治水施設の利活用(玉城町ほか)								
SNSを活用した情報発信	情報発信方法の検討、試行(玉城町他)								

3.かわまちづくりの当面のソフト整備

■ソフト施策の個別施策計画

基本方針2:歴史資源や既存施設 を生かしたかわとまちの回遊性の向上

- 宮川の沿川に分布する歴史資源や宮川河川敷内の既存施設をつなげるような案内板、周遊ルートの設定を検討する。
- 周辺市町とも連携したサイクルルートの利活用について推進する。

基本方針3:宮川の新たな魅力の発信

- 宮川の河川敷を活かした新たなイベントの開催について検討する。
- SNS等を活用した情報発信について検討する。



4. かわまちづくりの当面のハード整備

■整備イメージ

(平面イメージ)

①高水敷利用スペースの整備

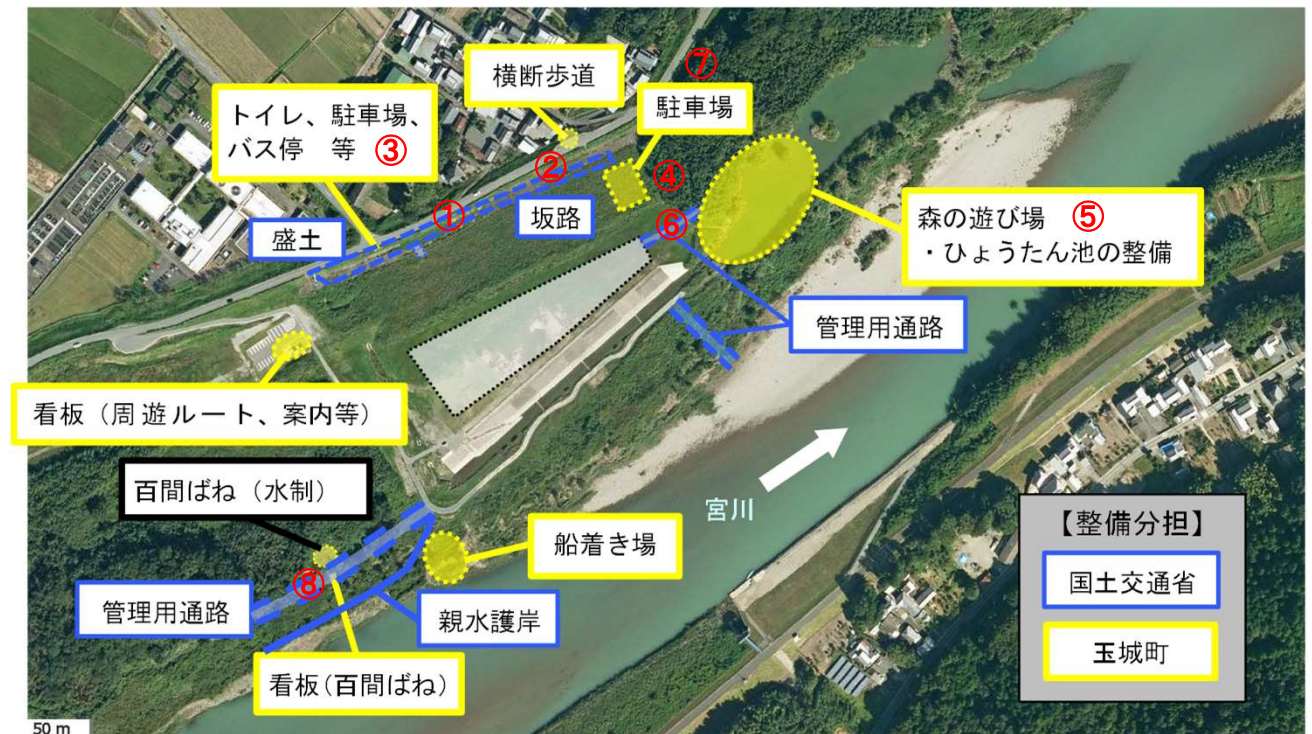
- 高水敷を盛土し、舗装することで、駐車場、トイレ等の施設整備、イベントスペースとしての利活用ゾーンとする。

②自然体験、歴史体験の散策路整備

- 下流部のひょうたん池の自然や、上流部百間ばねを活用した歴史体験の場としての散策ルート及び利用ゾーンを整備する。

③宮川に親しむ親水護岸整備

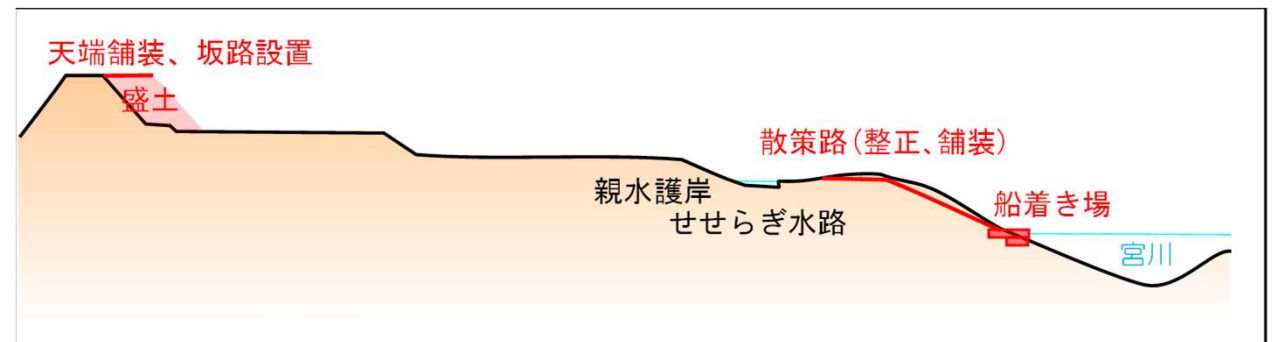
- カヌー体験や宮川と触れ合える場として、船着き場及び散策ルートを整備する。



(横断イメージ)

<3/28コア会議からの変更箇所>

- ①治水上の観点から、盛土幅は最小限として見直し
- ②盛土部の下流側に坂路を設置
- ③盛土部の手洗い場、照明の設置は削除
- ④高水敷に駐車場を整備
- ⑤森の遊び場の整備内容を簡素化
- ⑥下流側管理用通路は、ひょうたん池までに縮小
- ⑦下流側堤防際の管理用通路は削除
- ⑧上流側管理用通路は親水護岸末端までに縮小



4. かわまちづくりの当面のハード整備

<整備の全体イメージ>



※資料はイメージを示すもので、今後変更する可能性があります。

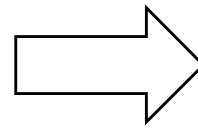
5.推進体制

■推進体制

- 令和4年9月28日、学識者、地域団体、玉城町、三重河川国道事務所等を含めた「玉城町かわまちづくり協議会」を設立し、地域の意向をかわまちづくり計画に反映している。
- 今後、「玉城町宮川利活用調整協議会（仮称）」を設立し、利用区域の利活用や管理運営に関するルール等の検討など、必要な事項について検討を予定している。

玉城町かわまち づくり協議会

- ・地域の意向をかわまちづくり計画に反映



玉城町宮川利活用調 整協議会（仮称）

- ・利用区域の利活用や管理運営に関するルール等の検討

6. 有効利用および維持管理

■ 施設の利用に関する計画

- 「玉城町かわまちづくり協議会」において、構想段階から地域住民が参画しており、地域住民の継続的な利活用、維持管理が可能となる。
- 今後は、「玉城町宮川利活用調整協議会(仮称)」を設立し、協議を重ねて活動を実施していく。

■ 維持管理計画

- 施設の占用及び維持管理については、玉城町が主体的に行います。
- 出水等の災害に対する施設被害に関しては、国土交通省が支援し、玉城町が主体的に行います。
- 日常の清掃等については、玉城町や地元住民や各種団体等により実施します。

7. 特徴

■ 効果指標の設定

- かわまちづくりとして目指す未来像について、「まちの回遊性向上」「まちの賑わい創出」の観点について、評価指標(KPI)を設定する。
- 目標水準は、玉城町の関連計画を踏まえて設定する。

観点	評価指標(KPI※)、目標値	関連計画・データ
まちの回遊性向上	観光レクリエーション入込客数 (2030年に300,000人)	第6次玉城町総合計画
まちの賑わい創出 (地域活性化、観光促進)	日常的利用者数	河川水辺の国勢調査(空間利用実態)
	昼田地区でのイベント数(開催日数)、 イベント等参加者数	届け出資料(管理者側) 現場カウント(主催者側)
	「公園・広場・緑地が整っていること」 の満足度(玉城町)(30%;2030年)	第6次玉城町総合計画

※KPI(重要業績評価指標):取組み全体の目標(KGI)を達成するための取り組み状況、プロセスを評価するための指標
数値目標は、関連計画を踏まえた設定値であり、今後協議会等を通じて適宜見直す場合がある

8. 今後のスケジュール

年	令和4年				令和5年							
月	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
協議会	● 第1回 協議会		● 第2回 協議会		● 第2回 WS		● 第3回 協議会 ● 第3回 WS	● コア会議	● 第4回 協議会		● 第4回 WS	● 第5回 協議会 （利活用調整協議会へ） ----->
	【第1回協議会】・対象箇所の現状と目指す姿について 【第2回協議会】・目標、整備メニュー、利活用・維持管理について 【第3回協議会】・かわまちづくり計画素案について 【第4回協議会】・かわまちづくり計画内容確認・承認、社会実験について 【第5回協議会】・かわまちづくり計画申請結果の報告、今後の進め方について(仮)											
	【第1回WS】・現地視察、目指すべき姿、宮川でやりたいこと(意見交換) 【第2回WS】・整備メニュー、利活用・維持管理について(意見交換) 【第3回WS】・より良い利用を図るための施設整備について(意見交換) 【第4回WS】・維持管理と役割分担について(意見交換)(仮)											
社会実験	● 7/7 水辺で乾杯		● ミナテラスキャンプ（適宜実施）	----->								
計画		計画素案の作成			計画案の作成		計画の策定			計画申請 6/16×切		計画登録